

ありがとうなちゅげよ

今回は新しい納税制度、ふるさと納税に関する予算計上や質疑が多くありましたので、**ふるさと納税制度**についてお知らせします。

A 平成27年度の寄付金額は約7億9000万円もあつたがです。これは平成26年度の480万円の16.5倍でした。

Q どんなどころを工夫したげよ。
A ここまで増やせたのはインターネットを利用したふるさと納税のサイト「ふるさとチョイス」で寄付を募集したこともありますが、他にも工夫があつたがです。まず、返礼品の企画・広報・受注管理の委託先による寄付者を楽しませる情報発信力とスムーズな受発注管理が全国4万2000人の心に届いたがやと思うちよります。また返礼品の参加生産者数が10から40を超える

Q 返礼品ちどんな地場商品がどればあ
A 例えば四万十うなぎ、しまんと米豚、四万十地栗スイーツ、お米、アユ、地酒から土佐打刃物や手づくりバイオリンまで、あらゆる地場産品が計約3億9000万円分も出たがです。これはある意味「地産外商」であるとも考えちゅげよです。

Q 返礼品を出した後に残る寄付金の使
A 寄付金は四万十町を豊かなまちにするため、
1、豊かな地域資源を活用した地場産業の振興。
2、いつまでも健やかに暮らせる高齢者支援。
3、ふるさととの未来を担う子ども支援。
4、四万十川の保全、観光・交流振興。
などに使わせていただくことにします。

Q 返礼品を出した後に残る寄付金の使
A 全国の自治体の中から四万十町を選んでいただき、ありがたいことです。

Q 返礼品を出した後に残る寄付金の使
A 38号の表紙説明で梶原弘資様の住所と、お父様との代目が間違っていました。正しくは（東又本堂）お父様が四代目、弘資様が六代目でした。

訂正

平成18年に四万十町が発足し、去る3月20日に合併10周年の記念行事が開催されました。さて、平成28年度は、向こう10年間の道標となる「第二次四万十町総合振興計画」の策定年にあたり、議会としても内容

表紙の説明

四万十町で頑張り輝いている人
菊地 祐さん
(神奈川県より移住)

地域おこし協力隊員である菊地さんの業務は、十和地域に1軒しかなくなつた鍛冶屋の技術を継承すること。現在、十川の勝秀鍛冶屋（松村幸作さん）に弟子入りし修行中です。頑張れ！

編集後記

平成18年に四万十町が発足し、去る3月20日に合併10周年の記念行事が開催されました。さて、平成28年度は、向こう10年間の道標となる「第二次四万十町総合振興計画」の策定年にあたり、議会としても内容

充実のために大いに議論を深め、広報を通じての情報提供に努めます。
(古谷)

【広報広聴委員会】

委員長 中屋 康
副委員長 武田 秀義
委員 岩井優之介
岡峯 久雄
榎野 章
下元 昇
下元 真之
古谷 幹夫



Q 最近ぎつちり新聞にも載りゆう、ふるさと納税ちどんながやつたかね。
A ふるさと納税とは、自分が応援したい自治体への寄付のことながです。四万十町では、町外の方からの寄付に対し町内産品をお礼の品として贈呈しゆうがです。
Q ふるさと納税の寄付金額がこじゃんと増えたらしいね。